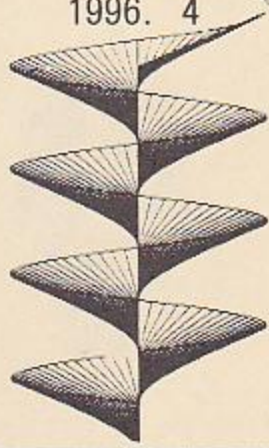


1996. 4



はるかにくす

No. 40

大阪工業大学図書館報

読書により人間観、 歴史観、人生観を養おう

図書館長 福田 護



私の父は土木技師であった。もの心がつくと身の回りは多数の工学書と若干の軍記本、文学書は殆どなく、ましてやマンガ本などはない。少年期は戦争、青年期は物資が極度に不足の戦後の混乱時代であった。私の育った地は当時、「質実剛健」をモットーに質素儉約をむねとし、勇ましく強く生きることを金科玉条とする気風があり、「硬派—ハード」がもてはやされ「軟派—ソフト」は忌避される風潮が強かった。この様な事情から、興味はハードな理工学の方へと傾斜していった。ソフトな文学には興味がまるっきりなく、国語の時間の文章丸暗記は苦手なで、いい成績をもらった記憶は余りない。大学卒業後も工学専門書の解説に専念し、文学書とはさらに縁遠いものとなってしまった。三十代も終わりの頃、日々の生活に何かもの足りなさを感じるようになる。それはハードな工学頭脳となっており、ソフトな人間の香のする情緒感の不足、つまりバランスの悪さにおそまきながら気が付いた。このようなことから、歴史に登場する実在の人物をテーマとした名著を読むことにした。山岡荘八「徳川家康」、司馬遼太郎「竜馬がゆく」、子母澤寛「勝海舟」、林房雄「西郷隆盛」、大岡昇平「レイテ戦記」等々。人間観、歴史観をこれらの書から読みとれたのは意義深いものとなった。壮大な歴史的叙事書か

らさらに、ものあわれ、わび・さび、幽玄を基調とする叙情的古典書に魅力を感じるようになる。平家物語、奥の細道、徒然草、雨月物語、近松・西鶴もの等々。国語の時間あれほどきらった文章の丸暗記、今となればこれほどベストな方法はない。繰り返し音読し名文はときに写筆する。
「^{ぎおんしょうじや}祇園精舎の鐘の聲、^{しよぎやうむじやうひびき}諸行無常の響あり。
^{さらそうじや}娑羅双樹の花の色、^{ことわり}盛者必衰の理をあらわす。
おごれる人も久しからず、^{ただ}唯春の夜の夢のごとし。
たけき者も遂にはほろびぬ、^{ひとえ}偏に風の前の^{ちり}塵に同じ。」

これは平家物語の冒頭の有名な一節であるが、数百年昔の文が今も新鮮でしみじみ味わえるのは感慨深い。多くの古典からそれぞれに貴重な人生観を学ぶ思いがあり有意義である。世紀の変わり目は歴史的に文化・社会に宿命的変動が起こっている。いかなる価値観の変化にも対応できるように、読書によって人間観、歴史観、人生観を吸収し、柔軟で幅広いそして豊かな人間性を養おう。

このたび図書館長を拝命いたしました。歴代の館長や多くの方々により築かれた知識の宝庫・図書館。皆様の協力によりさらにすばらしい図書館にしたいものです。今後共よろしく願い申し上げます。（土木工学科教授・工学博士）

思想と科学 — 「宗教と近代科学の勃興」を読んで

Religion and the Rise of Modern Science

経営工学科博士後期課程3年 向日恒喜



昨年、日本を騒がせたオウム真理教事件についての議論のなかで、なぜ科学のエリート達があのような宗教に走ったのか、という疑問がよく出されていました。この疑問の背景には、宗教と科学というものは相反するものであるという意識があるのではないのでしょうか。しかしこの本は、宗教と科学は切っても切り放せない関係であり、それも科学は宗教の結果である、と論じています。

この本の著者 R. Hooykaas は、17、18世紀にヨーロッパにおいて、なぜ近代科学が生じたのかという疑問から出発し、宗教革命とプロテスタントイズムが科学に与えた影響について考察しています。また単に近世のキリスト教の影響について論じているだけではなく、古代のギリシャ哲学、中世のキリスト教やユダヤ教と科学との関係についても考察し、近世のキリスト教の影響と対比しているだけに説得力があります。具体的には、神が創られた秩序ある世界像から自然科学が発展していく土台となった機械論的世界像が形成されていった。またプロテスタントイズムに立った科学者達が神の栄光のために真理を探求していった、と論じています。

これらの内容がどれだけ正しいものであるかは私には判断はできませんが、この本は宗教、もう少し広くとらえると思想というものがどれだけ大きな影響を科学に与えているのか、ということ啓蒙する機会を与えてくれるのは確かです。宗教や思想が自然科学に与えた影響については、哲学や科学技術史の分野では多くの議論がなされており、思想が科学の発展へ大きな影響を与えていることは自明のことであるものの、私達はそのような議論についてどれだけ知り、そして思想の大切さをどれだけ自覚しているのでしょうか。大学における哲学や倫理学の講義を単なる教養としてとらえるだけでなく、科学を探求していく上でのスパイスとしてとらえていく必要があるのではないのでしょうか。少なくとも、自然科学以外の分野に目を向ける余裕と幅広い視野を持って、科学の研究に携わっていきたいと思うわけです。

「宗教と近代科学の勃興」 R. Hooykaas 著

藤井 清久 訳 すぐ書房

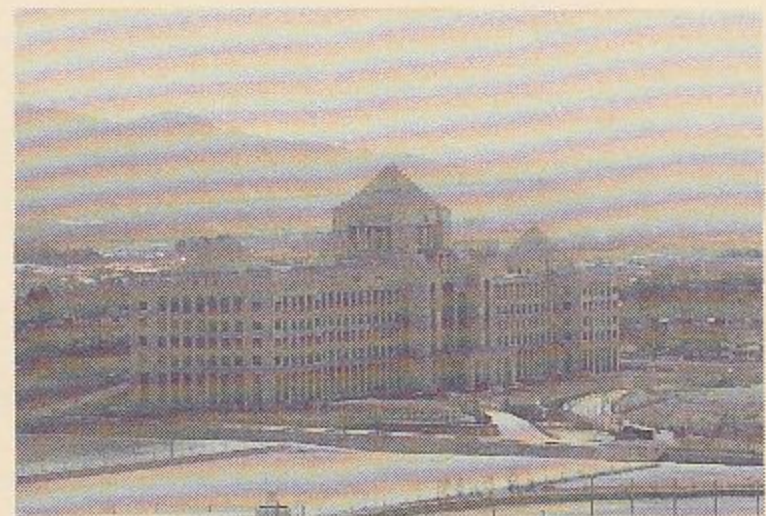
(請求記号 402 H 第1図書室)

情報科学部図書館オープン

情報科学部開設に伴い、枚方キャンパスに情報科学部図書館がオープンしました。

この図書館の基本コンセプトは、「自由に楽しく情報をキャッチできるパーク(公園)…」で、情報科学の多様な可能性に挑む学生の、創造的な活動の支援の場として、図書館員一同頑張っています。

本館図書館と同様に利用でき、情報科学系の最新の図書が数多く備わっておりますので、是非利用してみてください。



▲ 大阪工業大学情報科学部

— 心に残るこの一冊 —

応用化学科4年次 廣澤克将



私の大学生活の始まりは、読書から始まった
 といって過言ではない。

大学の入学式、受験戦争から解放された私は、
 希望でいっぱいだった。しかし理系のこの大学
 の授業は高校と同様、つめこみ作業ばかりでと
 まどい、又夢を語り合える友もいず、ただただ
 毎日をなにげなく過ごす日々。

私は何をしにこの大学へ来たのか。私の本当
 に進むべき道は何なのか、悩み続けている時に
 みつけた本が、宮本輝著の「春の夢」であった。
 この本は、父の借財をかかえた一大学生がもが
 き苦しみながらも必死に生きていく様を、ある
 一匹の蜥蜴に例えて描いたものである。その蜥
 蜴は針にさされて動くこともできない。それな
 のに生き続ける。主人公はその姿を自分の様に
 思いだし、蜥蜴を生かそうとし、また自分も共

に生きようとする。

この本を読むまでの私は、
 勝手に自分が作った世界に1
 人で閉じこもり、その世界の中で、まさにこの
 蜥蜴のように手足をバタバタさせて動けない状
 態だったのであろう。この世界から抜け出して、
 そして新しい自分を見つけてやる、そう自分自
 身に誓い続けて今日に至った。

最近ようやく私にも本当にやるべきことが分
 かってきた。勉強も課外活動も人間関係もすべ
 てを引っ括めて、正面から自分をさらけだして
 取り組むことである。

まだ針から抜け出し、自由に動ける私ではな
 いが、「春の夢」から学んだ生き方をいつまで
 も貫ぬいていきたい。

(文春文庫 第1図書室)



ちょっとした外国語の覚え方
 -外国語をマスターする10の秘訣-

新名美次著
 (講談社)

タイトルを見てわかると思いますが、いわゆ
 る“HOW TOもの”です。しかし、一般的
 なそれとはちょっと違ってエッセイの様な要素
 もあり、軽く読み進める事が出来ました。

「北海道大学を卒業後、25歳で渡米。以来26
 年間のアメリカ生活。現在ニューヨークで眼科
 医を開業している。」しかも非常にポジティブ
 な精神を持ち、おまけにスポーツマン。こんな
 小説かドラマにでも登場しそうな程、バランス
 のとれた人がいるものなのだと私の場合著者の
 方に興味を引かれて読み進んだという気がします。

この著者の旺盛な好奇心で得られた、いろん
 な経験や知識をもって、心理学的分析からエア

ロビスクに至るまであらゆる面をとおして語学
 習得法を紹介してあります。

映画・音楽・歴史・アロマセラピー等々。

誰が読んでみても、どれかひとつは興味を持っ
 て読める部分が見つけれられると思います。

各章末には、「まとめ」として28の語学習得
 法のコツが書かれています。その中には、根気・
 集中力等という言葉が出てきます。私を含め苦
 手な人は多いと思いますが、40ヶ
 国語を操ることのできる著者の話
 だけに、妙に説得力を感じてしま
 いました。(ちなみに著者は「40
 ヶ国語習得法」という本も書かれ
 ています。)

いずれにせよ外国語に少しでも
 興味をもっている人には、良い参
 考書になるのではないでしょ
 うか。

(図書館 西條)

(請求記号 502.1 Y 話題の図書コーナー)



